

## Iwamoto-Fujii Ambassador 帰朝報告

大阪市立総合医療センター 小児整形外科

北野利夫

初代 Iwamoto-Fujii Ambassador として、2015年3月に、英国の小児病院7施設の訪問と、Liverpool での BSCOS (British Society for Children's Orthopaedic Surgery) の annual meeting に参加してきました。本フェローシップ創設の岩本幸英先生、藤井敏男先生、JOPA 国際委員会の川端秀彦委員長はじめ国際委員の先生方のご尽力により、以下の英国を代表する7つの都市の小児病院を訪問することができ、各病院ではたいへんな歓迎を受けました。今回、このような訪英ができましたのは、九州大学に当時の杉岡洋一教授のフェローとして留学されたご経験のある Southampton の Professor Nicholas Clarke 先生から BSCOS President の Mr. Aresh Hashemi-Nejad にこの話を進めていただいたことによります。訪問先は以下の7施設です。

- 1) Royal National Orthopaedic Hospital, Stanmore
- 2) Great Ormond Street Hospital, London
- 3) University Hospital of Southampton, Southampton
- 4) Bristol Royal Hospital for Children, Bristol
- 5) Nuffield Orthopaedic Centre, Oxford
- 6) Sheffield Children Hospital, Sheffield
- 7) Alder Hey Children Hospital, Liverpool

訪問先でお世話になった先生方を DDH 関連中心の業績とともに訪問の日程順に日記風に紹介します。

3月2日(月)に BSCOS president である Mr. Aresh Hashemi-Nejad を Royal National Orthopaedic Hospital, Stanmore (開院 1905 年、現在のベッド数 220 床) の Catterall Unit に訪ねることから始まった。Mr. Aresh は「Hip Dysplasia-Management to Adolescence」<sup>4)</sup> や「Surveillance after treatment of children with developmental dysplasia of the hip: current UK practice and the proposed Stanmore protocol」<sup>9)</sup> にみられるように、小児股関節も扱うが、



図 1. Hospital tour in the UK

エンジニアと共同で自己開発した人工股関節の手術もする股関節外科医

である。

3月3日(火)は Great Ormond Street Hospital, London(1852年, 387床)に Ms. Deborah Eastwood と Mr. Andreas Roposch を訪ねた。EPOS の President である Ms. Deborah は Mr. Roposch と共に『Risk factors for hip dysplasia in newborns』の研究に力を入れていて、Ms. Deborah は「Neonatal hip screening」<sup>3)</sup>の中で超音波による DDH の診断と要治療例の割合、治療時期について総説している。また、Mr. Roposch は「Standardized diagnostic criteria for developmental dysplasia of the hip in early infancy」<sup>6)</sup>の中で DDH の Clinical diagnostic criteria について Delphi 法を用いて評価している。

3月4日(水)と5日(木)は University Hospital of Southampton(1900年, 1100床)に Professor Nicholas Clarke を訪ねた。DDH の超音波(2 plane + dynamic)を用いた早期診断<sup>2)</sup>と、Pavlik harness(PH)による早期治療(生後3か月未満)を、PH 治療の適応外や不成功例には Incomplete periacetabular acetabuloplasty<sup>1)</sup>による治療を行っていた。Prof. Clarke は International Hip Dysplasia Institute(IHDI)のメンバーの1人である(IHDI の URL : <http://hipdysplasia.org/>)

3月6日(金)は Bristol Royal Hospital for Children(1866年, 160床)に Mr. Fergal Monsell(limb deformity), と Mr. Simon Thomas(DDH)を訪問した、午前中は Morning conference, Dr. Sarah Smithson の Skeletal dysplasia の講義と BRH での臨床研究の発表会の後に時間をいただき、私は DDH treatment in Japan を講演した。午後は teaching day とのことで、University of Bristol に移動し、レジデントに向けての Mr. James Hunter (Nottingham) の SUFE と LCPD 講義の後、メンバー総出でレジデントを指導していた。

3月7~8日の週末は Oxford の Mr. Tim Theologis, Mr. Andrew Wainwright, Mrs. Rachel Buckingham の3人の Consultant に順に Oxford 市内と近郊 Woodstock にある Blenheim Palace を案内していただいた。

3月9日(月)は、Nuffield Orthopaedic Centre, Oxford(1872年, 134床)と John Radcliffe Hospital(1973年, 790床)を訪問した。Nuffield Orthopaedic Centre は England の Oncology centre の一つであり、また、CP をはじめとする neuromuscular disorders の患者も多く Gait Laboratory と連携して研究活動を行っている<sup>8)</sup>。

3月10日(火)は Sheffield Children's Hospital(1876年, 150床)に Mr. Mark Flowers を訪問した。この日は朝の病棟回診から始まった。入院患者の15人を round し、年間400例の OI 患者を診察している Mr. Stephen Giles の OI 外来を見学。現在は Sheffield rod に加えて Fassier-Duval rod が OI に対して使用されている。Mr. Mark Flowers の hip clinic<sup>7)</sup>の見学の後、Sheffield member との lecture 交換。私は日本の小児股関節診療の現状について講演した。

3月11日(水)は英国最後の訪問地である Liverpool の Alder Hey Children's Hospital(1914年, 309床)の Mr. Colin E. Bruce を訪問。ここはヨーロッパ最大の小児病院で、HP によると年間2万7000人を治療しているとある。現在新病院建設中であり、建設中の巨大かつ最新設備の病院見学ツアーに参加させていただいた(Alder Hey の HP 参照)。Mr. Colin E. Bruce は BSCOS Liverpool 2015 の local chair で DDH hip と Spine を専門とし、学会前日にもかかわらず脊柱側彎の手術をしていた。Alder Hey には、四肢・関節系の6人、脊椎系3人、合計9人の consultant が在籍し、BSCOS の翌週にも約30件の手術を予定していた。院内を案内してくれた Mr. Daniel Perry は Perthes' disease の疫学研究<sup>5)</sup>により Ph.D. を得た Liverpool 大学 Senior Lecturer の新進気鋭の小児股関節外科医であり、低年齢発症の Perthes' disease に対して積極的に骨切り術をしていた。

以上が、英国を代表する7つの小児病院の訪問の記録ですが、ここでは紹介しきれないほどのたくさんの先生にお会いすることができました。各都市ではディナーパーティ、病院訪問、講演会開催などをスケジュールしていただき、レクチャーの機会を与えていただいたりと、予想をはるかに上回る歓迎を受けました。夜、訪問地に到着して現地の Dr. との夕食会、翌日朝に病院を訪問しての見学や講演会、夕方には次の訪問地に向けて出発、そして次の訪問地に着いてから、現地の Dr. との夕食会というパターンの連続でした。英国での7都市をすべて列車で移動し、2週間でこれらの都市を回るといふ、かなりの強行軍でしたが、非常に充実した訪英でした。

3月12日(木)~13日(金)、LiverpoolでのBSCOSのannual meetingでは、大会長 Mr. Colin E. Bruceのご配慮により、20分間の講演の機会を与えていただき、日本の小児股関節治療について紹介することができました。BSCOSのannual meetingでの私の発表のタイトルは“The Spectrum and Management of Children’s Hip Disorders in Japan”とし、日本でのDDH, LCPD, SCFEの診断・治療の主だった方法や議論されている事柄について報告させていただきました。股関節疾患に対する日本発信のさまざまな骨切り術には、BSCOSメンバーの多くが強い関心を示され、日本の優れた小児股関節手術治療法が英国からも注目されていることをあらためて感じることができました。この時の講演スライド作製準備に際し、多くの先生方から貴重なスライドや写真をお借りすることができましたことを、大変感謝いたしております。この場をお借りしまして心からお礼申し上げます。英国訪問の後はロンドン→パリ経由とし、パリではNecker Enfants HospitalのProf. Philippe Wicartを訪問し、ClubfeetのFrench approachなどを見学したのち帰国の途につきました。

今回の訪英を通して、日本の小児整形外科医療を紹介すると同時に、日本と英国の違いを認識することができました。日本の誇れる治療法をBSCOSメンバーに理解していただけたと同時に、私自身の、そして、日本の小児整形外科の弱い部分を再認識することができました。これらのことを、JPOAの会員の先生方に伝えていくのが私の使命と肝に銘じています。

今後ますますJPOAとBSCOS間の交流が進むように、これからもBSCOSメンバーの先生方と連絡を取り続けていきたいと考えています。



最後に、今回の Iwamoto-Fujii Ambassador としての訪問に関してご尽力いただきました岩本幸英先生、藤井敏男先生、川端秀彦先生はじめ国際委員の先生方に重ねて心からの感謝を申し上げて、私の帰朝報告を締めくくらせていただきます。

#### 文献

- 1) Carsi B, Al-Hallao S, Wahed K, Page J and Clark NMP: Incomplete periacetabular acetabuloplasty. *Acta Orthop* **85**(1) : 66-70, 2014.
- 2) Clark NMP, Castaneda P: Strategies to improve nonoperative childhood management. *Orthop Clin N Am* **43** : 281-289, 2012.
- 3) Eastwood DM : Neonatal hip screening. *Lancet* **361** : 595-597, 2003.
- 4) Hashemi-Nejad A : Hip dysplasia-management to adolescence. *Eur J Surg Orthop Traumatol* : 4405-4417, 2014.
- 5) Perry DC, Bruce CE, Pope D, Dangerfield P, Platt MJ, Hall AJ. Legg-Calve-Perthes disease in the UK: geographic and temporal trends in incidence reflecting differences in degree of deprivation in childhood. *Arth Rheum* **64** : 1673-1679, 2012.
- 6) Roposch A, Liu LQ, Hefti F, Clark NMP, Wedge JH : Standardized diagnostic criteria for developmental dysplasia of the hip in early infancy. *Clin Orthop Relat Res* **469** : 3451-3461, 2011.
- 7) Tafazal S, Flowers M : Do we need to follow up an early normal ultrasound with a later plain radiograph in children with a family history of DDH. *Eur J Orthop Surg Traumatol*(Online published), 2015.
- 8) Theologis T: Lever arm dysfunction in cerebral palsy gait. *J Child Orthop* **5**(7) : 379-382, 2013.
- 9) Wright J, Tudor F, Luff T, Hashemi-Nejad A : Surveillance after treatment of children with developmental dysplasia of the hip: current UK practice and the proposed Stanmore protocol . *J Pediatr Orthop B* **22**(6) : 509-515, 2013.